



CHAdeMO整備部会 モビリティとその先を切り拓く事業開発

日産自動車株式会社

ビジネスパートナーシップ開発本部

新規事業開発部

事業開発に取り組む背景



カーボンニュートラルへの 取り組みを推進

より競争力の高い効率的なEVの開発に向けた
バッテリー技術の革新

エネルギー効率をさらに
向上させたe-POWERの開発

2030年代早期より、
主要市場で投入する
新型車すべてを電動車両へ

再生可能エネルギーによる
分散型発電に貢献する
バッテリーエコシステムの開発

生産技術イノベーションによる
エネルギーと資源の利用効率向上

2050年 クルマのライフサイクルでのカーボンニュートラル実現

日本市場での販売台数増 モデルの刷新と電動化の推進

日本

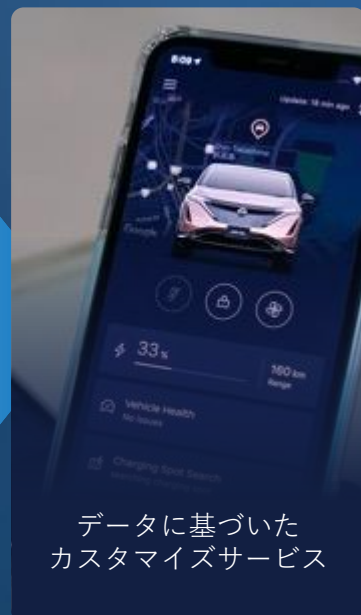
日本		
 商品投入	 新たなビジネス機会	 販売台数増
<h2>80%</h2> <p>乗用車ラインナップを刷新</p> <h2>5</h2> <p>5車種の新型車を投入</p> <h2>70%</h2> <p>乗用車ラインナップの70%を電動化</p>	<h2>Full-scale</h2> <p>エネルギーマネジメントとユーティリティサービス、バッテリー二次利用サービスの拡大</p> <h2>Expand</h2> <p>日産の自動運転技術を活用したモビリティ・サービスの拡大</p> <h2>Enrich</h2> <p>コネクテッドサービスの充実</p>	<h2>9万台増</h2> <p>FY26の60万台に向け販売を増加</p>



新たな売上の機会

新たなビジネス機会を創出

車両販売
カスタマーサービス



データに基づいた
カスタマイズサービス



オンデマンド
機能更新



EVエネルギー
エコシステム



モビリティ
サービス

将来に向けて拡大

日産EVラインナップ



EV導入 4つのメリット

① CO2排出量

- バッテリーに蓄えた電気をモーターで直接駆動するため、走行時のCO2排出を大幅に削減することができる

② BCP対策

- 災害による停電時に、EVから電気を取り出すこと(放電)により、企業や自治体にとって重要な業務が継続できる

③ ランニングコスト

- 燃料費は大きな価格変動がなく、ガソリンよりも安価
- ガソリン車よりも部品が少なく、メンテナンス費用が抑えられる(例：エンジンオイルの交換)

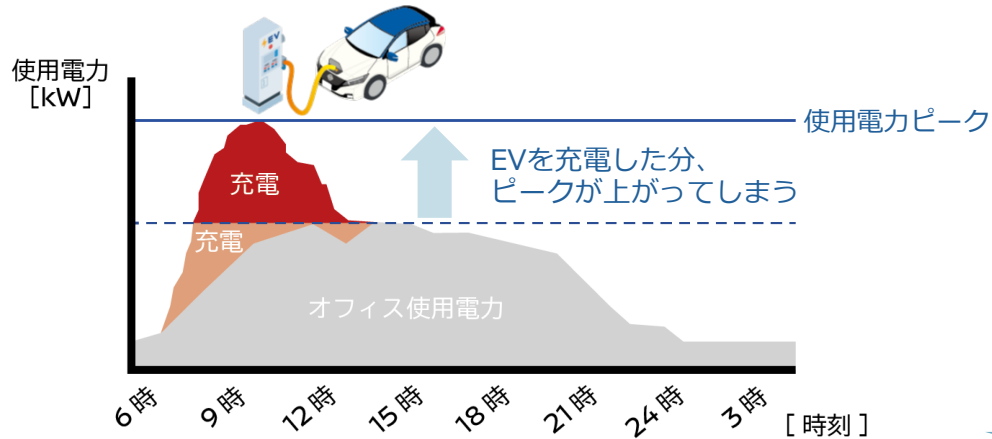
④ 性能

- 発進時やアイドリング時の音や振動がなく、静粛性に優れる
- e-Pedalにより、ワンペダルで滑らかな発進・加速・減速・停止を実現し、運転時のストレスや疲労を軽減

EV販売と共に新たな顧客ニーズが顕在化

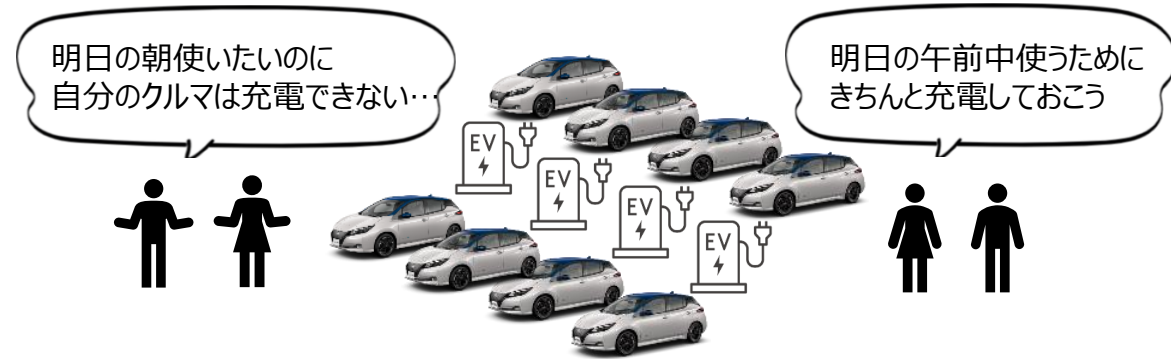
① EVと充電器をそれぞれ同じ台数で導入する場合

同時充電により電力ピークが立ってしまう



② ①の解決のために 充電器をEVよりも少ない台数で導入する場合

同時充電できず、車としての利便性が損なわれる



NISSAN
ENERGY
SHARE

電気をかしくシェア



エネルギーの効果的な運用とモビリティの利便性を両立するのがニッサンエナジーシェアです

ニッサンエナジーシェアとは

- 電気自動車(EV)の充放電をかしこく行うことで、EV利用により生じる電力ピークを抑え、電気料金の増加を防ぐオフィスの電力需要と連携した充電マネジメント
- 車の利便性を損なうことなく、電気料金削減・自社の環境価値の向上・地域貢献・BCP確保を実現する
※BCP=事業継続計画 (Business Continuity Plan)

NISSAN
ENERGY
SHARE

環境にやさしく・かしこい充放電を叶える
法人向けエネルギーマネジメントサービスです

生み出される価値



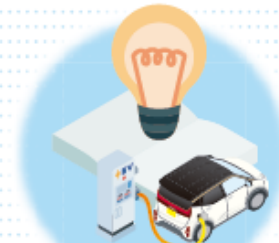
環境価値の向上



電気代削減



地域貢献



BCP確保

4つの提供価値 ①環境価値の向上



環境価値の向上



電気代削減



地域貢献



BCP確保

課題

太陽光パネルを導入しても、休日や早朝は需要がなく電力を有効活用できず、発電容量の出力抑制や、追加の太陽光パネル導入の妨げにつながり、十分な再エネ率向上を見込めない

事業の脱炭素化

- 太陽光発電の余剰電力を積極的に吸い込み、建物の需要が高まったときに放電させることで、EVを電池として活用し再エネ率を上げることができます

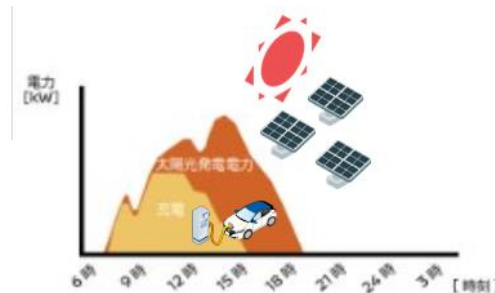
太陽光発電を有効活用したい。
パネルを追加設置したい。



移動の脱炭素化

- さらに、太陽光発電の発電量に応じてEVへの充電を自動的に調整し、より多くの再エネで必要な電力を賄うことができます

ニッサンエナジーシェアは、
脱炭素化に向けての取組み促進の一助になります



4つの提供価値 ②電気代削減



環境価値の向上



電気代削減



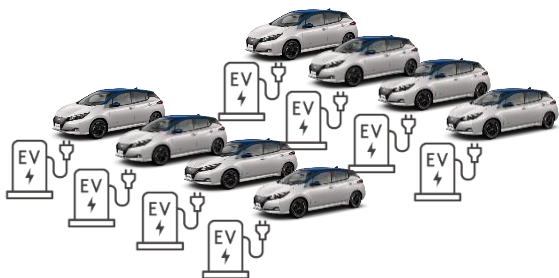
地域貢献



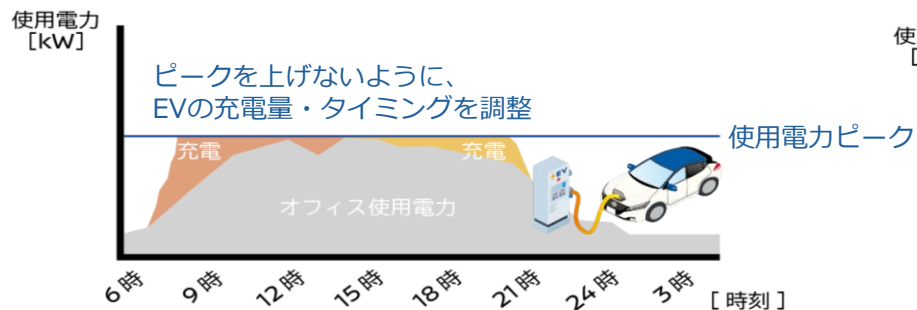
BCP確保

- 充電マネジメントによるピークシフトおよび、充放電マネジメントによるピークカットで建屋の電気代の削減が可能です

複数台のEVを同時充電した際の 電気代高騰

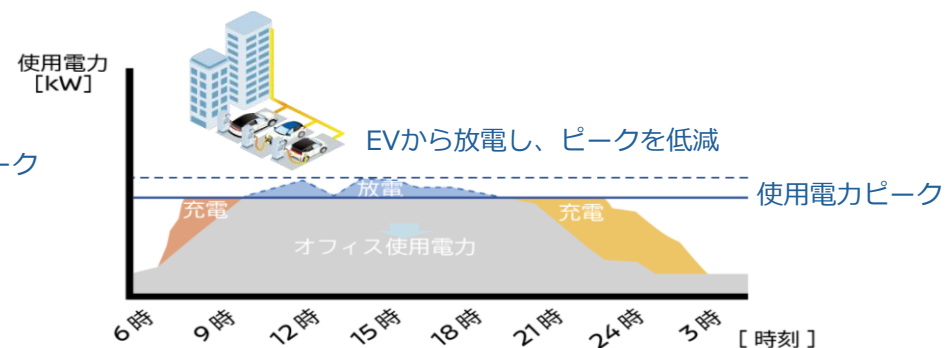


電気料金の増加を防ぐピークシフト



オフィスの使用電力ピーク時にEV充電を抑制することで、電気基本料金の増加を防ぐ

ピークカットできるエネマネサービスは日産の特長!! / 電気料金を削減するピークカット



充放電器を活用し、使用電力ピーク時にEVからの放電を行うことで、使用電力のピークを低減させ、電気基本料金を削減

4つの提供価値 ③地域貢献/④BCP確保



環境価値の向上



電気代削減



地域貢献



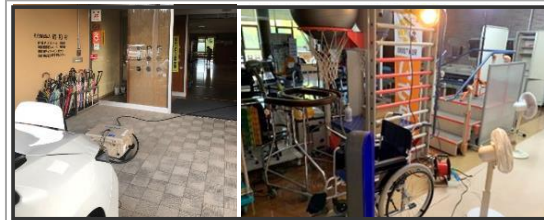
BCP確保

- 災害時に、EVから停電した施設やその設備、被災した住民のスマートフォンなどへの給電により、事業継続に役立たせ、地域に貢献することができます
- また、平時では地元のイベントでのライトアップなどに電気を提供することもできます

※ただし、充放電器を導入した場合に限ります



保育所(扇風機の稼働)



高齢者福祉施設(扇風機/冷蔵庫/調理器具の稼働)



日光 華厳の滝ライトアップイベント



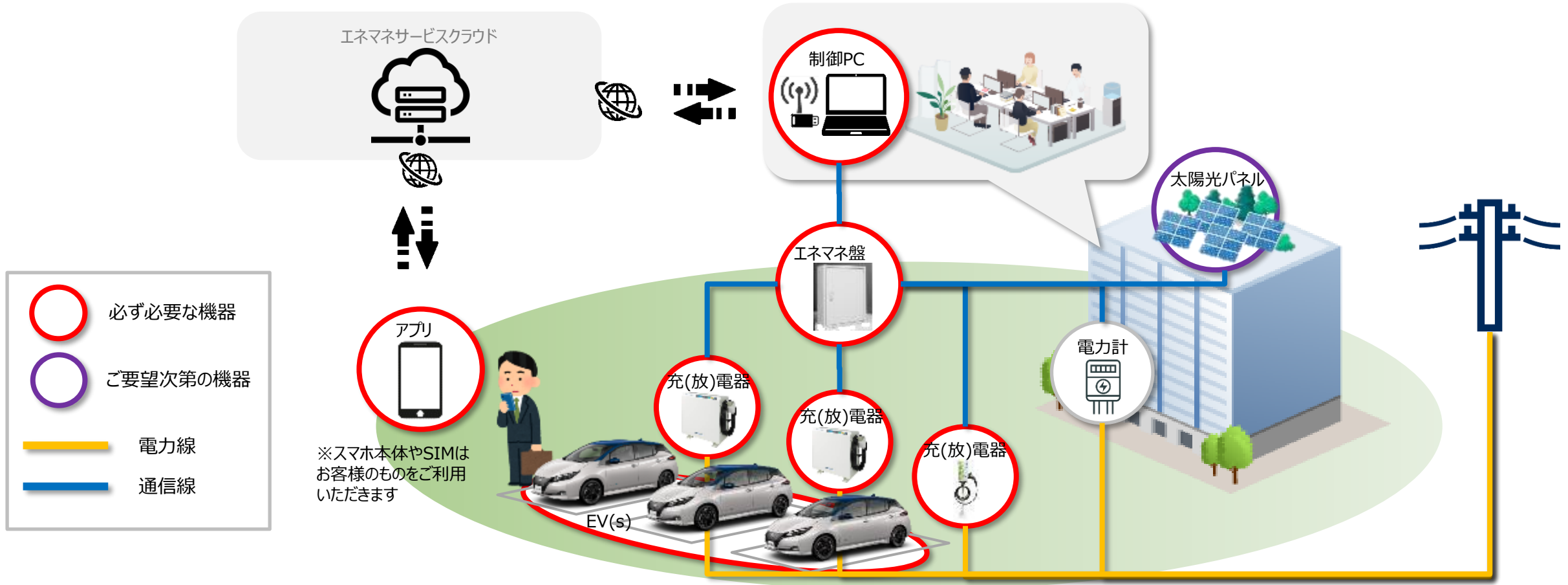
公民館(スマートフォン充電/扇風機稼働/夜間照明点灯)



静岡 桃源郷まつり

千葉県長期停電時のEV活用例(2019年)

『NISSAN ENERGY SHARE』 サービスに必要な機器構成イメージ



- **必須機器** : EV、充電器または充放電器、エネマネ盤(通信機や演算機を組み込み)、制御PC(制御ソフトや設定値が入っている)
- **連携可能な機器** : 太陽光パネル
- **その他現状設備次第のもの** : 電力線や通信線などの配線、入力信号変換機など、設置、配線、施工が必要

ニッサンエナジーシェア 導入事例（福島県浪江町）

- 2021年2月、福島県浪江町と日産自動車は「福島県浜通り地域における新しいモビリティを活用したまちづくり連携協定」を締結
- 浪江町の公用車として導入されているリーフを活用し、クリーンエネルギーの地産地消を促進するエネルギーマネジメントの実証実験を実施



ニッサンエナジーシェア 導入事例（広島大学、群馬日産）

広島大学 理事・副学長 金子様



- **広島大学 カーボンニュートラルの取組み**
 - 2030年 カーボンニュートラル実現を目指す(通勤・通学含む)
 - カーシェア(eシェアモビ)との連携
- **ニッサンエナジーシェア 導入の狙い**
 - 社会課題(カーボンニュートラル)への大学としての貢献
 - 大学内複数拠点EVのエネマネによる再エネ有効活用、BCP確保
- **導入プロセス コンサルティングで役だった事**
 - カーシェアリング車両活用のエネマネ提案(学生・教職員巻き込み)
- **今後 検討したい事**
 - 大学内3000台(通勤・通学)のカーボンニュートラル化

GNホールディング株式会社



- **GNホールディング カーボンニュートラルの取組み**
 - 事業所へのPV設置、水力発電を利用した電力供給 等
 - 農業法人“mino-lio”の展開(廃オイルの農業への利活用)
- **ニッサンエナジーシェア 導入の狙い**
 - 電気代削減、自社の環境価値向上、BCP確保、地域への貢献
- **導入プロセス コンサルティングで役だった事**
 - 実現したい姿の可視化、パイプ役となり各業者間の連携
- **今後 検討したい事**
 - ニッサンエナジーシェア 店舗展開の検討

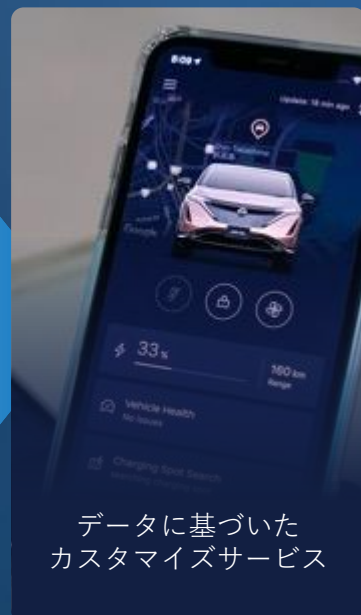
ニッサンエナジーシェアのワンストップコンサルティングサービス



新たな売上の機会

新たなビジネス機会を創出

車両販売
カスタマーサービス



データに基づいた
カスタマイズサービス



オンデマンド
機能更新



EVエネルギー
エコシステム



モビリティ
サービス

将来に向けて拡大

Nissan Biz Connect

リアルタイムに日産の車両データを連携し、 さまざまなサービスやシステムにご活用いただけます。

日産車のリアルタイム車両データを外部連携し、ビジネスの可能性をひろげるNissan Biz Connect API。専用API*を通じて、日産ビジネスクラウドサーバーと法人のお客さまのシステムを連携し、電力残量や電力消費量、GPS位置情報などを取得できます。Nissan Biz Connect APIを導入し、車両データを活用してみませんか。



日産リーフ



たとえばこのような業種に

- ▶ モビリティ関連サービス事業
- ▶ 自治体関連サービス事業
- ▶ 新規サービス事業 など



日産サクラ



サービス概要 紹介動画（2分半）

Nissan Biz Connect 

NISSAN

<https://www.youtube.com/watch?v=86OMpQnAgA&feature=youtu.be>



車両データを取得するには。。。。

キーBOX

ドライブレコーダー

SIM内蔵端末

GPSロガー

シガーソケット電源

スマホアプリ



- 端末代/レンタルコストが高い
- 取り付け/付け外し費用が高い
- 架装事業者を見つけるのが大変
- 車両稼働までに時間がかかる
- 社外品が安定動作するか不安
- メーカー保証を受けられなくなるか不安
- EV関連データが取得できない
- メーカーお墨付きのデータが欲しい

Nissan Biz Connect API

API連携による車両のリアルタイムデータ取得



日産とお客さまのサーバーをシステム連携することで、EVの位置情報や電力残量(SoC)などの走行中データを**リアルタイムに取得**し、ご活用いただけます。

追加デバイス・架装不要

予め車両に搭載されている**純正通信ユニット**でデータ取得を行うので、追加のデバイス・架装が不要。データビジネスの加速に貢献します。



日産の電気自動車からサービス開始



対象車両(純正通信ユニット搭載車両)
日産リーフ(2021年モデル以降)
日産サクラ
今後、**サービス内容や対応車種を拡大**予定です。



ユースケース

タクシー



位置情報や稼働状況を配車システムに連携することで、車両データを活用した最適な配車計画を作成したり、EVの電力残量をリアルタイムに把握し、充電タイミングを最適化することもできます。

カーシェアリング



車両の位置やEVの電力残量をリアルタイムに把握し、ユーザーに最適な車両をご案内したり、車両の貸し出しや返却処理などの煩雑な業務を効率化できます。

車両データ活用 : Nissan Biz Connect API

純正車載器を活用した
データ連携

- 日産純正車載器から収集した車両位置情報やEVバッテリー残量などのデータを、リアルタイムにフリート顧客システムにAPI連携することが可能
- 後付けデバイス等の架装は不要で、日産純正データを活用でき、タクシーやカーシェア、法人車両などの効率的な運行をデータでサポート

Nissan Biz Connect API



日産クラウド
サーバー

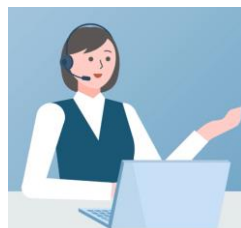


日産純正車載器にて
データ取得

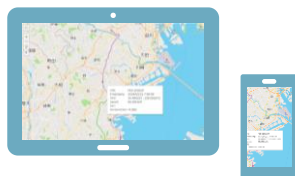


お客様クラウド
サーバー/システム

配車システムへの連携



タクシー情報端末/
アプリへの情報連携

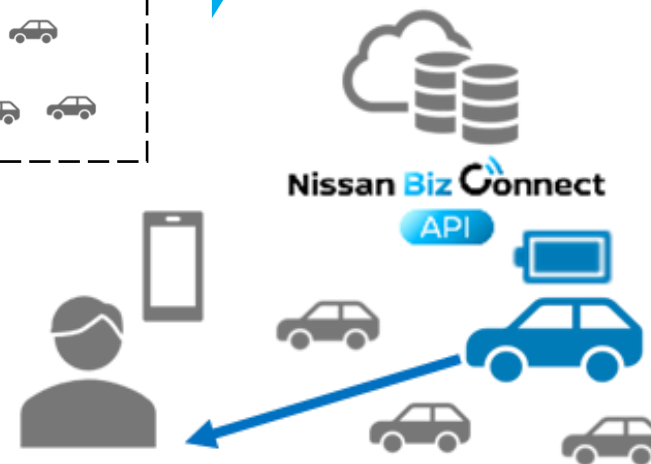


<タクシーでの活用事例>

Before
空き車両、近くの車両を
機械的に配車



After
フルSOC車両を
効率的に配車



対象車両



日産リーフ(2021年モデル以降)*



日産サクラ*

必要な装備

- EV専用NissanConnectナビゲーションシステム
- 車載通信ユニット(TCU)

*グレード別設定。“S”グレードは対象外となります。 ※車種およびグレードは2024年9月時点の仕様となります
※日産アリアも対象車両となりますが、一部仕様が異なります。詳しくはお問い合わせください。

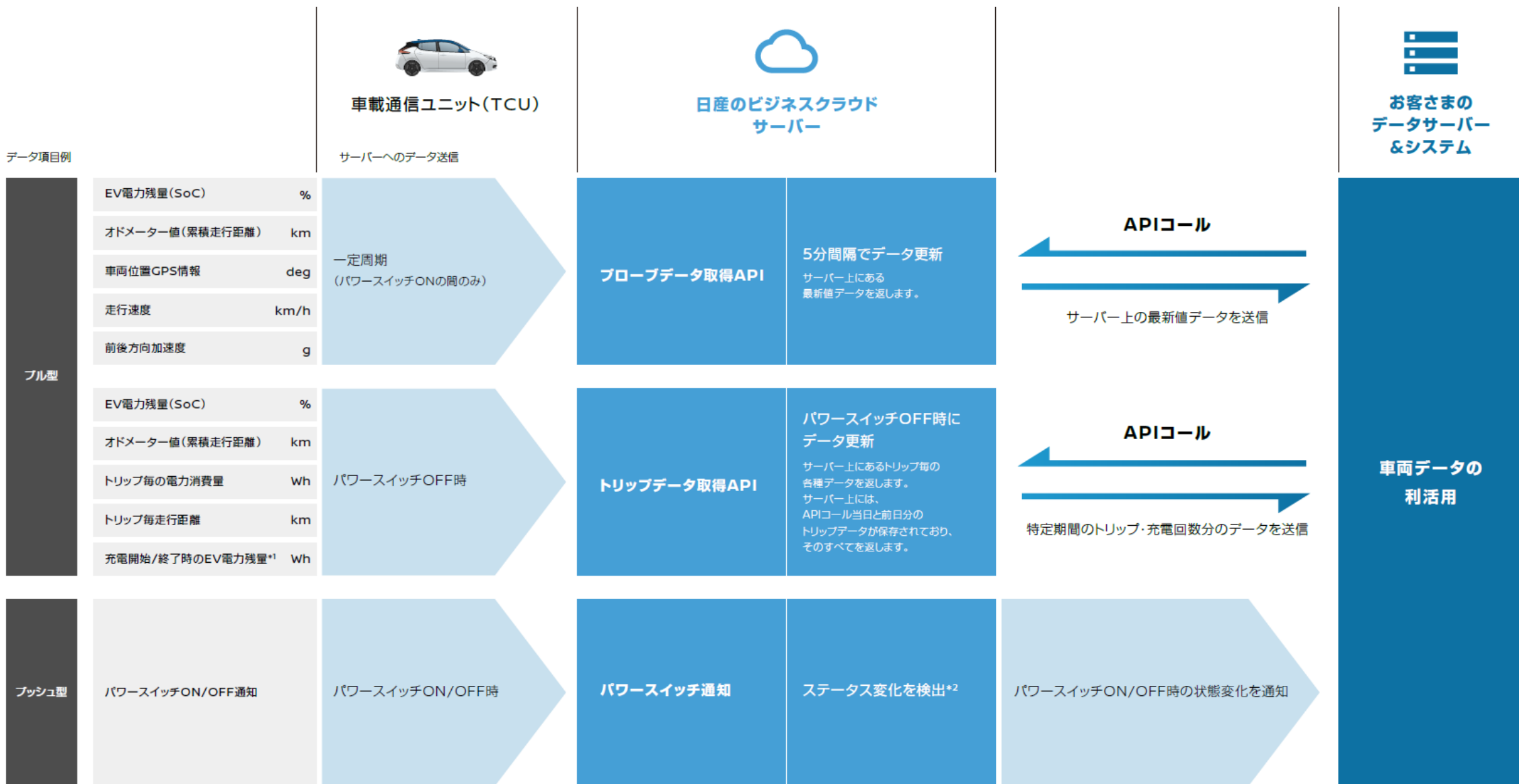
今後はe-POWER搭載車種も、続々と対象車両に。

Nissan Biz Connect APIの対象車両として、e-POWER搭載車種なども随時追加予定です。

この他にも、ビジネスを支援する便利な機能をご提供予定。

Nissan Biz Connect APIでは、今後も続々とお客様のニーズにお応えするさまざまな新機能を提供してまいります。

機能



ご清聴ありがとうございました

